

2010-2011 年度の社会連携ウイングの活動について

社会連携ウイング担当 川端隆史

学術研究の社会的意義への問いかけと社会連携ウイング発足の経緯

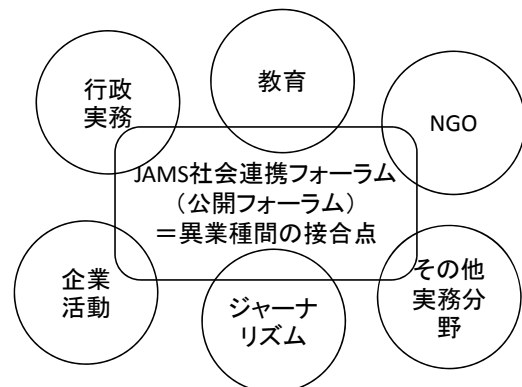
学術研究の社会的役割や意義とは何でしょうか。もちろん、知のフロンティアを切り開き、次世代への研究につなぐことがあるでしょうし、また、研究成果の一端を教育、企業の活動、日々の生活、趣味、教養の分野などへ還元することで社会に貢献していることは間違いありません。一方で、短期間のうちに学術研究に成果を求めるような偏重した効率主義は、学問の本来の意味を見失いかねないという危険性もはらんでいます。こうした伝統的な学問の在り方は、今後も重要だと思います。

しかし、時代は、個人では到底カバーしきれないほどの速さで変化し、多様化しています。例えば、JAMS が扱うマレーシアという国について、もはや一人ですべてを理解できる時代ではなくなりました。私自身、10年以上にわたり行政実務に携わるなかで、JAMS 会員や、他の官庁、政府系機関、企業、報道関係者などマレーシアや東南アジア諸国にさまざまな形で関わっている人たちとの情報交換や意見交換を通じて、自分なりにマレーシアの全体像を把握しようとしてきました。私以外の JAMS 会員にも、在外公館での専門調査員、企業勤務、NGO など狭義の学術研究とは異なる業種に身を置いた会員が少なからずおり、似たような経験を共有し、共感してきました。また、大学院で学位を取得して大学教員となった会員にも教育者という実務者としての立場があり、留学生教育、地域コミュニティへの貢献、高大連携などの社会的ニーズへの対応がこれま

で以上に求められている状況があります。このように、JAMS には多様な経歴や背景を持つ会員が多数在籍しているという他の学会にはない特徴があり、これが JAMS のかけがえのない財産であるとも言えます。

こうした経験と問題意識を背景にして、2009 年度に JAMS 社会連携ウイングが発足しました。社会連携ウイングは、他の学会にはあまり見られない JAMS 独特の存在であり、JAMS としての社会連携の在り方を考えることだけでなく、学術研究による新しい社会貢献の在り方を JAMS から他の学会や研究機関に波及させることも狙いの一つとしています。

JAMS 社会連携ウイングは、研究者や実務者などといった立場の違いを超えて、マレーシアという地域に対してさまざまな関わりを持つ人が経験や知見を共有し、それぞれの活動に活かす結節点となることを目指しています。ただし、単なる情報交換会・交流会ではなく、それぞれの業種で「暗黙知」や「経験知」として見えにくい知見を「見える化」された共有できる知へと意識的に転換する試みを行っています。



これまでの活動成果

JAMS 社会連携ウイングでは、中心的な活動として社会連携フォーラムを実施してきました。このフォーラムの特徴は、実務者を話題提供者として迎え、さらに多様な背景を持つ会員や非会員による参加を得ているように、JAMS 会員だけでなく社会に開かれた対話の場とすることを目指していることです。2009 年から 2010 年期には、計 3 回の社会連携フォーラムを開催し、外交、企業、教育、ジャーナリズムを中心に実務者と研究者との間での情報共有・意見交換を行いました。詳しい内容はこれまでの会報に掲載されています。

これまでに行われてきた議論は、社会連携フォーラムらしく多岐に渡りましたが、今後のフォーラムの発展という観点からは、次の点が浮き彫りとなったことが大きな成果と言えます。①異業種間での協働のためには、業種ごとに異なる語を読み解くための「文法の理解」と「翻訳作業」が必要であることが認識されたこと。②政治など事象としては同じことを対象にしても、異業によって必要とされる成果物の違いから着眼点、分析の手法、情報の要否の判断基準が大きく異なること。③行政機関の政策的立場や企業の利潤追求など実務者の立ち位置が分析の枠組みに影響し、テーマによっては取り上げることすら難しいものもあること。④多文化環境における留学生教育の分野では、東南アジア出身の留学生に日本人教員が東南アジアについて教育するという状況が生じ、日本人学生に対する教育とは大きく教え方が異なること。

2010 年-2011 年度の活動計画

2010 年から 2011 年度の JAMS 社会連携ウイングの活動は、社会連携フォーラムを活動の中

心とて、以下の方向で行います。

社会連携フォーラムで扱うテーマについては、前期の成果を活かし発展させる方向で、外交や安全保障、教育、企業の分野などが考えられます。また、JAMS 会員だけで行うのではなく、関心や課題を共有する研究プロジェクトや現場の実務者や機関との連携を行っていきます。

開催回数は、半期ごとに 1 回程度で、2010-2011 年期中で計 4 回の開催を目指します。開催日は、平日では本務との関係で参加が困難である参加者が多いことが予想されるため、原則として土日や休日に設定します。

JAMS 会員の皆さまへ

今後、JAMS 社会連携ウイングは、担当委員を中心に会員の方々や外部の協力者とともに社会連携フォーラムの企画を具体化していきます。詳細はメーリングリストや JAMS ウェブサイトでお知らせします。会員の皆さんにあたっては、非会員もお誘い合わせのうえ、是非、積極的にご参加ください。

また、会員の皆さまから、こうしたテーマはどうか、知り合いに興味深い活動をしている人がいるなどの情報やアイディアの提供も大歓迎です。担当委員にお知らせください。